

豊田PCB廃棄物処理事業だより(No.63)

1. 作業員の負傷事故について

6月26日、豊田PCB廃棄物処理施設(豊田施設)内において、小型トランスの解体作業中に、作業員が鉄心(トランス内の部品の一部 重量約150kg)を倒そうとした際に鉄心が思わぬ方向に倒れ、鉄心と作業台の間に右手の中指と薬指の先を挟まれ、負傷(挫滅創、骨折)する事故が発生しました。

発生後すぐに負傷者を病院に搬送して治療を行うとともに、トランス解体班全員で発生した原因や作業手順に問題がなかったか等について検討しました。その上で改めて作業安全への注意喚起を行い、今後の当該作業については鉄心を直立させた状態での作業を禁止し、必ずパレタイジング・クレーン及び傾転機を使用して倒した状態から作業を行うよう徹底しました。

当施設では、日頃から「作業安全」「環境安全」等安全に関する様々な活動を展開しているにもかかわらず、このような負傷事故が発生したことは非常に残念なことではありますが、今回の事故をいろいろな面から検証し、改めて安全に対する取り組みを継続してまいります。



鉄心を倒そうとしている状況を再現



鉄心に挟まれた状況を再現

2. 豊田PCB廃棄物処理施設の運転状況について

豊田施設では、安定操業によりPCB廃棄物処理を継続しており、6月の処理実績は下表のとおりです。

操業状況の紹介として、小型トランスが豊田施設の受入保管エリアに受け入れられたところから受入検査室に運ばれ、密閉容器から取り出されるまでの写真を掲載しました。

今後も安全第一にPCB廃棄物の処理を進めてまいります。

平成21年6月の操業実績

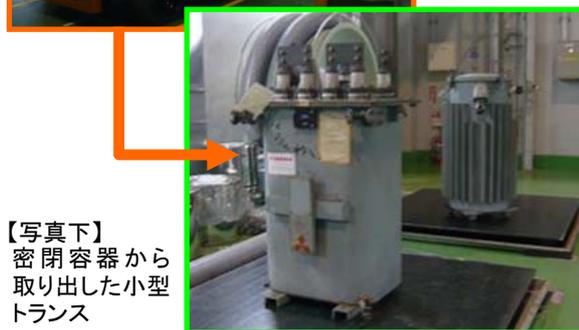
種別		受入台数	抜油・解体台数
コンデンサ類		415 台	499 台
トランス類	大型	4 台	4 台
	小型	21 台	27 台
	車載型	3 台	3 台
廃PCB等		4 個	4 個

※ 受入後、一時保管してから計画的に処理ラインに投入するため、受入台数と抜油・解体台数に差が生じます。

【写真上】
小型トランスが入った密閉容器を受け入れ



【写真中】
密閉容器ごと受入検査室へ



【写真下】
密閉容器から取り出した小型トランス

3. PCB廃棄物の7月の受入計画

平成21年7月の受入計画(予定)

種別		受入台数
コンデンサ類		549 台
トランス類	大型	4 台
	小型	23 台
	車載型	3 台
廃PCB等		4 個

7月のPCB廃棄物の受入計画は、左表のとおりです。

コンデンサ類は、少量保管事業者(保管台数が20台未満の事業者)を中心に、豊田市内から73台、愛知県内から369台、静岡県内から105台、岐阜県内から2台を受け入れる予定です。

大型・小型トランス類は、愛知県内から4台、岐阜県内から23台、車載型トランスは静岡県内から3台を受け入れる予定です。

また、ドラム缶に入っているPCB油(廃PCB等)は、愛知県内から4個を受け入れる予定です。

4. 豊田市PCB処理安全監視委員会の開催について

6月2日、豊田施設において平成21年度第1回豊田市PCB処理安全監視委員会(委員長:松田仁樹名古屋大学大学院教授)が開催されました。

はじめに豊田市から、当施設等への立入検査の結果として、①分析に使用する試薬等の管理状況、②PCBオンラインモニタリングのうち測定不能を示した第3排気系統ラインへの対応状況、③初めてPCB廃棄物の運搬を実施した収集運搬事業者からの受入状況、等を確認し、いずれも適切な対応がされていると報告されました。



監視委員による豊田施設の現場視察

次に弊社から、①本年4月末までの東海4県におけるPCB廃棄物処理状況、②上記の第3排気系統ラインのオンラインモニタリングが測定不能となった原因とその対策、等について説明いたしました。

その後、委員の方々に当施設の前処理ライン(主に抜油・解体設備、洗浄設備)を見ていただき、各設備の機能や安全対策状況について確認していただきました。

最後に委員の方々からは「説明や施設視察を通じて安全に対する教育がなされていると感じられたが、今までどおり緊張感を持って安全に操業すること」等、貴重なご意見をいただきました。

5. 安全に対する取り組み

安全で確実なPCB処理を行うためには、設備を熟知し適切に運転するだけでなく、日常作業に潜むリスクの把握とその対応、社員の健康管理等も非常に大切な要素です。

豊田施設では社員教育の一環として、「安全」につながる様々な講習等を実施しています。

(1) リスクアセスメント講習

6月4日及び5日に、社外から講師を招いてリスクアセスメントに関する講習会を実施いたしました。

リスクアセスメント(以下「RA」という)とは、「職場に潜在する危険性・有害性を特定し、見積評価(数値化等)して除去、低減する措置を実施すること」です。当講習では①RAの法的根拠、②RAの手順(特定、数値化等のポイント)、等を学び、さらに事例をもとにRAの演習も行いました。

これまでの技術、経験と今回の講習を活かして、より安全なPCB廃棄物の処理を推進してまいります。

(2) 産業医による健康講話

6月9日に豊田施設の産業医による健康講話(テーマ:熱中症)を実施しました。

社員は講話を聞き、①熱中症が発生しやすい環境(高温多湿、炎天下での作業)と事例、②症状(重症度Ⅰ～Ⅲ度の内容)、③救急措置と予防(涼しい場所での安静、水分、塩分の補給)等について学びました。

これから暑い季節になりますが、施設内外において十分健康管理に努めてまいります。

(3) 普通救命講習

6月17日及び24日に、豊田市消防署の消防士を講師に招いて普通救命講習を実施しました。

当講習は、①救命措置(傷病者の反応確認、119番通報、人工呼吸、心臓マッサージ等)の模擬訓練と実技テストによる成果確認、②救命措置を行いながらAED(心臓救命装置)を使用する訓練等を内容とするものです。

社員が施設内外で起こりうる緊急時に対応できるよう、これからも定期的に訓練を行ってまいります。



リスクアセスメント講習



健康講話



普通救命講習(実技テストの様子)

連絡先

日本環境安全事業株式会社(JESCO)

(連絡先) 豊田事業所 0565-25-3110

【豊田事業HP】 <http://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/index.html>